

## 会津若松市民との交流

盛 昭史(よいち水産博物館)

平成 27(2015)年 10 月 14 日、福島県会津若松市役所において、同市と余市町との「親善交流都市」締結式が挙行されました。明治 4(1871)年に旧会津藩士団が余市に入植してから 145 年を経て、二つの自治体が新たな絆で結ばれることとなったのです。

会場となった市長室には、会津若松市と余市町で収穫されたばかりのリンゴ「緋の衣」が並べられ、締結式に華を添えました。「緋の衣」は、旧会津藩士らによって栽培され、「余市リンゴ」隆盛の基礎となった品種です。会津若松市の「緋の衣」は、平成 11(1999)年に、余市町の吉田農園から同市「平成りんご研究会」に贈られた原木の枝が成長、実を成らせたものでした。

「緋の衣」の例のように、会津若松市と余市町は住民同士の交流を重ねてきました。平成に入ってから主な交流を紹介します。

平成 7 年 5 月 会津若松市城南ロータリークラブと余市ロータリークラブが姉妹クラブ提携。

平成 16 年 5 月 会津若松市長及び市民約 90 名が来町。会津藩士の墓に献花。

平成 17 年 8 月 会津若松市の小中学生が来町(引率を含め 89 名)。町内の児童と交流。

平成 21 年 7 月 余市町内の小中高生 17 名が会津若松市を訪問。同市児童生徒と交流。

平成 24 年 7 月 「会津白虎剣士会」メンバー等 36 名が来町。会津藩士の墓に剣舞を奉納。

平成 26 年 9 月 会津松平家第 14 代当主松平保久氏ら 13 名が来町。会津藩士の墓に献花。

こうした交流の積み重ねが、「親善交流都市」締結として実を結んだのでした。

締結以後も、平成 27 年 11 月に町内の中学生 9 名が会津若松市を訪問、平成 28 年 10 月に会津若松市民 92 名が来町、翌 29 年 8 月に会津若松市小学生ら 30 名が来町して町内小学生と交流、同年 11 月には余市町民 22 名が会津若松市を訪問するなど、活発な交流が続いています。旧会津藩士入植 150 年の節目を迎え、今後も新たな交流の歴史が築かれていくことでしょう。



町内には、旧会津藩士ゆかりの記念物が多数所在しています。開村記念碑、殉節碑、会津藩士の墓などが知られていますが、中にはあまり知られていないものもあります。その一つが、余市町役場庁舎前にある水松(イチイ)です。駐車場の真ん中に立っているので、目にしたことのある方も多いのではないのでしょうか。

この樹は、旧会津藩士の川俣友次郎氏が昭和 11 年に寄贈されたもので、側に設置された碑の裏面には、次のような由来が記されています。

「…未開の地を拓いて林檎を栽培した川俣友次郎氏が…昭和十一年旧役場庁舎新築の際、余市町の発展を念じて樹齢八十年の大木を自庭からこの舎前に移して寄贈したものである。」

碑文によれば、この水松は昭和 11 年の時点で樹齢 80 年というのですから、現時点(令和 2 年)では 160 年を超えています。

この記念樹もまた、旧会津藩士の足跡を今に伝えるものと言えるでしょう。

